

第141回 日商簿記検定試験 2級 工業簿記 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問

(1) 材料購入時の仕訳

材料購入時における買入手数料は、購入原価に算入する点に留意する。なお、工場ではなく本社が購入代金を支払っているため、本社勘定を増額させる。

(借) 材	料	2,440,000	(貸) 本	社	2,440,000
※素 材…3,000kg(購入数量)× 800円/kg(購入単価)=2,400,000円					
補修用材料… 100kg(購入数量)× 200円/kg(購入単価)= 20,000円					
買入手数料…					
					20,000円
合 計					2,440,000円

(2) 賃金消費時の仕訳

直接工の賃金は、直接作業時間に対する部分を仕掛品（直接労務費）に計上し、間接作業時間に対する部分を製造間接費（間接労務費）に計上する。なお、間接工の賃金は全額間接労務費となる。

(借) 仕	掛	品	4,140,000	(貸) 賃	金	6,040,000
(〃) 製	造	間	接	費	1,900,000	
※直接工直接作業賃金…2,760時間(直接作業時間)×1,500円/個(予定総平均賃率)=4,140,000円 ⇒仕掛品へ						
直接工間接作業賃金… 100時間(間接作業時間)×1,500円/個(予定総平均賃率)= 150,000円						
間 接 工 賃 金…1,800,000円(当月賃金支払高)+150,000円(当月賃金未払高)						
⇒製造間接費へ						
-200,000円(前月賃金未払高)=1,750,000円						

(3) 棚卸減耗の把握

棚卸減耗費は、製造間接費（間接経費）となるため、材料勘定から、製造間接費勘定へ振り替える。

(借) 製	造	間	接	費	90,000	(貸) 材	料	90,000
-------	---	---	---	---	--------	-------	---	--------

(4) 製造間接費の予定配賦

直接作業時間を基準に配賦するため、(2)に示されている直接作業時間2,760時間を参照する。

(借) 仕	掛	品	2,484,000	(貸) 製	造	間	接	費	2,484,000
-------	---	---	-----------	-------	---	---	---	---	-----------

※予定配賦率…30,240,000円(製造間接費予算)÷33,600時間(予定総直接作業時間)=900円/時間

※予定配賦額…900円/時間(予定配賦率)×2,760時間(直接作業時間)=2,484,000円

(5) 製品の完成

製品は、製造直接費と製造間接費で構成されていることに留意しながら計算を行う。

(借) 製	品	7,525,000	(貸) 仕	掛	品	7,525,000
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

※製造直接費： 5,500,000円

製造間接費：900円/時間(予定配賦率)×2,250時間(直接作業時間)=2,025,000円

7,525,000円

第5問

問1 損益分岐点売上高

- a. 固 定 費：1,000万円(製造固定費)+800万円(固定販売費および一般管理費)=1,800万円
- b. 貢 献 利 益 率：2,000万円(貢献利益額)÷5,000万円(売上高)×100%=40%
- c. 損益分岐点売上高: 1,800万円(固定費)÷40%(貢献利益率)=4,500万円

問2 400万円の営業利益を達成する売上高

{1,800万円(固定費)+400万円(目標営業利益)}÷40%(貢献利益率)=5,500万円

問3 現在の売上高が損益分岐点に達するまでの減少率

「現在の売上高が減少しても、何%までなら損を出さないか」と読み替えることができるため、本問では安全余裕率を問うていると解釈できる。したがって、安全余裕率を計算する。

{5,000万円(現在の売上高)－4,500万円(損益分岐点売上高)}÷5,000万円(現在の売上高)×100%=10%

問4 売上高が500万円増加するときの営業利益増加額

貢献利益率が40%であるため、売上高が500万円増加した場合、500万円×40%=200万円増加する。なお、固定費は売上高に応じて変動する費用ではないため計算において考慮外となる。

問5 損益分岐点売上高を100万円引き下げための固定費引下額

貢献利益率が40%であるため、損益分岐点売上高が100万円引き下がると、貢献利益が100万円×40%=40万円減少する。この分の固定費を減少させなければ営業利益はマイナスとなるため、固定費引下額は40万円と計算される。